

議 事 録

会 議 名	第8期第3回寒川町まちづくり推進会議
開 催 日 時	令和4年12月22日(木) 午後3時～午後5時
開 催 場 所	町民センター 視聴覚室
出席者名、欠席者名及び傍聴者数	<p><u>○出席委員</u></p> <p>山下委員 中島委員 橋口委員（副会長） 星委員 大森委員 金子巖委員 吉田委員 金子洋一委員 吉川委員 杉下委員（会長） 安田委員</p> <p><u>○欠席委員</u></p> <p>小菅委員 相田委員 金子一茂委員 小泉委員 織田委員</p> <p><u>○事務局</u></p> <p>戸村町民部長 岡野町民協働課長 栢沼主査 清田主事 栗原主事</p> <p><u>○傍聴者数</u></p> <p>1名</p>
議 題	<p>(1) 協働の見える化「シンボルマークの作成」について（資料2）</p> <p>(2) 公募委員サロン（仮称）の開催について（資料3）</p>
決 定 事 項	<p>1 議事録承認委員：大森委員、金子巖委員</p> <p>2 協働の見える化「シンボルマークの作成」についてのチラシ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「協働」ではなく、「協働(きょうどう)」とする ・協働事業の具体例を載せる ・応募資格は「不問」ではなく、「寒川のこと好きな方ならどなたでも」等柔らかい表現にする ・応募規定は「応募用紙、自由様式」ではなく、接続詞「もしくは」を加える ・最優秀賞以外の賞を追加する（例：寒川未来賞） ・令和5年度中に受賞作品の作成者に通知する旨を記す ・「協働ってなに？」の説明文内の「私たち」は、「寒川が大好きな人」とする <p>3 公募委員サロン（仮称）の開催について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシを見た方へのメッセージは「交流しませんか」等の柔らかい表現にする ・開催は平日午後3時からとし、次回会議までに事務局で日時と会場の案を決める ・当日の流れは、参加者に大まかな時間軸で伝われば良い <p>4 わたしの提案制度褒賞審査会：中島委員</p> <p>5 次回会議は、2月15日(水)午後3時からとする。</p>

公開又は非公開の別	公開	非公開の場合 その理由（一部非公開の場合を含む）	
議事の経過	<p>1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 委嘱状交付 4. 新任委員 自己紹介</p> <p>5. 議事録承認委員の選出（資料1）</p> <p>【事務局】 それでは、次第の5、議事録承認委員の選出に移ります。会議資料の1ページをご覧ください。まちづくり推進会議は、公開・傍聴が可能であり、会議終了後には、議事録を作成いたします。議事録は、発言者の氏名を含め、議事の内容等をまとめた後、寒川町審議会等の会議の公開に関する規則第8条第2項に基づき、会議ごとに指名される議事録承認委員に確認を取った後に、ホームページなどで公開させていただきます。これまで、まちづくり推進会議では、資料1の委員名簿の上から順番に、出席委員の中から議事録承認委員を指名しております。本日、5番、小菅さんと7番、相田さんがご欠席ですので、事前に配付いたしました資料とは異なりますが、今回の議事録承認委員に6番、大森さん、8番、金子巖さんをご指名することにご異議ございませんでしょうか。</p> <p>（各委員、異議なし）</p> <p>【事務局】 それでは、大森さん、金子巖さん、ご承諾いただけますでしょうか。</p> <p>（大森委員、金子巖委員、承諾）</p> <p>【事務局】 ありがとうございます。本日の会議の議事録承認委員は、大森さんと金子巖さんに決定させていただきます。よろしく願いいたします。</p> <p>以降の議事につきましては、寒川町まちづくり推進会議規則第4条の規定に基づき、杉下さんに進行をお願いいたします。それでは、お願いいたします。</p> <p>【杉下会長】 では、次第6の議題から進めさせていただきます。まず、（1）協働の見える化「シンボルマークの作成」について、事務局からご説明をお願いいたします。</p>		

6. 議題

(1) 協働の見える化「シンボルマークの作成」について (資料2)

【事務局】-資料2に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございます。では、資料の6ページ、検討事項を確認させていただき、その後、委員の皆様から、さらなるご意見、ご提案があればお伺いする流れにさせていただきます。まず議題(1)を進めさせていただければと思います。

検討事項「①チラシのタイトル」について、何かございますでしょうか。今、「協働をあらゆるシンボルマークを募集します」となっておりますが、「堅いのではないか」「こういう言い回しが良いのではないのか」等のご意見がございましたら、お願いいたします。

また、検討事項「②チラシを見た方向けのメッセージ等」には、「あなたのアイデアで『協働』を分かりやすくデザインしてみませんか」。「③協働ってなに？」には、「協働とは～」と書いてありますが、これではまだ堅いのではないかとということで、ご意見を賜ればと思います。

まずは、検討事項①②③でご意見がございましたら、お願いいたします。では吉田さん、お願いいたします。

【吉田委員】デザインやチラシのタイトルのところで、「協働」という漢字二文字が、大人には分かると思いますが、お子様から年配の方々まで、幅広い年齢層に分かるようにと考えると、堅く、重く見えがちに、感じます。また、「③協働ってなに？」の文面で、「協働とは私たちと町が」と書いてあります。この「私たち」がどの範囲の「私たち」になるのか、少し抽象的に感じましたので、もう少し具体的に。「町民と町」になるのかなといったところを、この場で相談しながら決められたらと感じました。

【杉下会長】あと、もう一人、二人、意見がございましたら、お伺いしてから進めたいと思います。では、金子巖さん、お願いいたします。

【金子巖委員】「協働」という言葉について、私も理解に非常に苦しんでいる。ホームページを見たり、辞書を引いたりしていますが、非常に抽象的で、何が何だか分からない。先日、協働事業提案制度中間報告会を傍聴させてもらい、初めて、「ああ、そうか。そういうことをやっているのか」と、理解したところでした。

検討事項③は、小さいお子様ということであれば、「協働」ではなく、平仮名の「きょうどう」に、「！」みたいなものをつければ良いのではないかと。

【杉下会長】ありがとうございます。今、吉田さんと金子巖さんから意見を賜った中で、まず「③協働ってなに？」というところが、もう少し砕けた方が良いのでは、というご意見がありました。すぐ出来るのは、「協働」の後に、(きょうどう)とか、「！」とか。小さいお子さんだと、「協働(きょうどう)」とした方が、読み方に苦勞しないのかなと思いました。

あと、吉田さんから出ました、「私たちと町が」の「私たち」は誰を指すのか。今回のシンボルマークで考えると、広い意味で、今回の「私たち」というのは、「寒川を大好きな人」。寒川に在住、在学、在勤の町民だけでなく、寒川に興味を持ってもらえる方、持っている方にも、協働のシンボルマークの応募が出来るということであれば、広い意味で「私たちは、寒川が大好きな方々と、町が対等な立場で決めますよ」という意味を持つ事が出来ます。あえて、今回は用語説明というより、これを読むきっかけとして、「寒川ではみんなで手を取り合って何かやっている。そのきっかけとしてシンボルマークを募集している」というニュアンスを表現出来たらと思います。

入り口が堅いと、その先を読まない人もいると思うので、まさに吉田さんのご指摘の通り、入り口を柔らかく、分かりやすくして、多世代に読んでもらおう。読んでもらわないと、次のステージに行かないので、という感じかと。勝手ながら整理をさせていただきました。

この表現が良いのではないかと等あれば、ご意見を賜ればと思いますが、いかがですか。では、金子洋一さん。

【金子洋一委員】協働の表現の仕方は色々あるのですが、町と協働して行った事業の具体例を書いた方が良くと思います。そうすると、応募者がそのことを調べて、シンボルマークにするイメージが湧きやすくなると思いました。

【杉下会長】事例を書くスペースはどうでしょうか。

【事務局】今のご意見を参考に作成させていただきます。

【杉下会長】事例があれば、より具体的にイメージが湧くと思います。今は保留にし、他にもチラシ全体を見て、ここは削除しても良いのでは、ここは膨らませるとか、後で微調整が出ると思うので、その中にいただいた意見を集約させていただければと思います。

では、検討事項①②③は区切らせていただき、また後で、「こんな言葉や表現がひらめきました」ということがあれば、お伺いさせていただきます。

次に、「④募集概要」をご確認させてください。「④-1 応募期間」「④-2 応募資格」は、先ほども説明がありましたが、町民に限らず、寒川を好きな方々なら誰でも応募出来ますよという案が出ております。

それから、「④－3 応募規定」「④－4 応募方法」「④－5 発表」「④－6 表彰」です。特に、「④－6 表彰」の中の副賞。今、寒川魅力セットという形で、寒川町の事業者や、店舗にご協力いただき、いわゆる詰め合わせセットをご提供出来ればと思っています。この名称は仮称なので、どんな名称が良いのか。また、それ以外にもこんな副賞があったら良いのではないかというのであれば、お伺いしたいと思います。

あとは、「④－7 注意事項」。4 ページの募集要項（案）では、選考方法で受賞作品として何点かということで、最優秀賞は当然 1 点とし、シンボルマークとして活用させていただくのですが、それ以外にも、例えば努力賞や何とか賞があると、せっかく素敵な作品の応募が多くあっても、1 点しか見てもらう機会がないと、もったいないと思います。シンボルマークとしては使えなくても、「寒川に対する思いが集約した素敵な作品が、たくさん届きました」という形で、賞を設けたらどうかということです。ご意見、ご質問があれば、お願いをしたいと思います。金子巖さん。

【金子巖委員】告知方法は、例えば広報掲載、ホームページ掲載、自治会回覧、という方法になるとは思いますが、その辺はどうなのでしょう。

【事務局】現段階では、広報とホームページには掲載する予定です。それ以外の方法に関しましては、皆様にご意見いただけたらと思っています。

【杉下会長】例えば、会社や店舗等というのもあると思いますし、SNS の活用もあると思います。そういう、プラスアルファでやれたら面白いのではないかというのであれば、併せてご意見をいただければと思います。山下さん、お願いします。

【山下委員】一番身近に感じるのは、回覧板が回ってくるときに「ああ、これは私たちにも関係あることなんだ」と思って、しっかり見ます。ですから、自治会の協力を得て、町で呼びかけて、A4 ぐらいの用紙に書いたら、ドキッとする方もいらっしゃると思います。

それで、子どもでも良いとなると、若いお母さんやお父さんが「子どもにやらせてみようかな」なんて思われるかもしれない。希望的観測なのですが、回覧板も結構有力かな、という気持ちがあります。

【杉下会長】ありがとうございます。募集の時には、自治会長連絡協議会にもご相談、ご協力を願いながら進めていければと思います。寒川魅力セットは仮称ですが、名称についてはいかがですか。

（各委員、意見無し）

【杉下会長】せっかく寒川に関心を持ってもらい、協働という点で、町だけでなく、町民だけでなく、みんなで手を取り合っていくことなので、やはり一緒に知恵や協力を持ち合わせて盛り上げるべきと考え、魅力セットを作ってはどうか、ということでした。色々なものの詰め合わせセットのようなイメージです。加えて、こういうのもあったら良いのでは、という副賞もあればと思うのですが、どうですか。

(各委員、意見無し)

【杉下会長】これからお店等に声かけをするので、どのぐらい集まるかと思うのですが。地元企業のご協力を得て、進めるということによろしいですか。

【事務局】はい。

【杉下会長】募集期間について、令和5年7月から8月、いわゆる夏休み期間とすると、お子様も空いた時間で一緒に、親子で考えられることを踏まえ、この約2か月間とする。応募資格も、特に制限はしない。規定は、皆さん各自でご確認をお願いします。吉田さん、お願いいたします。

【吉田委員】応募規定のところで、A4判の白色用紙（上下を明記）と、3ページの用紙を用いてくださいと書かれている。A4判の白色用紙に、自分の好きな画材を用いて書いて良いのか、3ページの応募用紙を使用しなければいけないのか、どちらなのかと感じました。

【事務局】確かに、今読み返してみると、分かりにくい。「①応募用紙、もしくはA4」のように、「もしくは」を入れさせていただきます。裏の応募用紙を使っても構いませんし、もしくはA4で白色用紙を使っても構わないという意味で、書いております。

【吉田委員】分かりました。この応募期間が8月31日必着。いつ発表というのが書いていない。選考委員会で選考し、発表するまでの期間が明記されていないので、そこを記載した方が分かりやすいと思います。まだ日程が分からないので、記載していないのかもしれませんが。

【事務局】ご応募いただいた後に、皆様で選考していただき、決定、発表していきます。最終的には、令和6年5月のまちづくり推進会議で決定し、その後、町長に報告となりますので、発表出来るのは町長への報告をした後になります。今、事務局で考えている案としては、まちづくり推進会議からの提言書を、町長に報告をする内容を、每期、広報に掲載しています。

そこに、シンボルマークの表彰の記事を一緒に載せられたらと考えております。広報さむかわの掲載号まで、今確約が出来ませんが、令和6年7月号の広報に掲載予定です。7月発表予定で良いですか。

【吉田委員】令和6年7月頃。

【事務局】広報の掲載は7月頃になりますが、発表自体はもう少し早めても構わないと思います。ですので、ホームページで先に掲載させていただき、広報の掲載は後になるという形でも良いと思います。

【杉下委員】最終的な審査は、このメンバーがそのまま審査会メンバーということで決定をする。8月末で募集が終わって、その直後の推進会議では何をしますか。

【事務局】1回の審査ですぐ決められるとは考えていませんので、2回の審査を考えております。その後、採用作品について、町のデザイナーにカスタマイズをかける場合もありますので、念のため、3回審査が出来る余裕をもって、予定を立てています。そして、最終報告が令和6年5月の推進会議となります。

【杉下会長】この作品が最優秀と決まった直後ぐらいに発表しても良いのではないですか。町長にというのとはまた別で。というのも、この会議自体が公開でやっているわけであり、最終的に決まった時点で、傍聴者には「この作品が決まった」と分かります。今回、シンボルマークを募集している主体はこの推進会議であり、この推進会議が審査会として選ぶわけです。ここで決まったものを発表するのは良いと思います。

一方で、最終的に町として報告するのは、手続の関係上、ずれるのですが、作成者への通知はなるべく早く。応募された方も「どうなったかな」と気になると思います。少し細かいですが、応募した人が毎回傍聴に来るかもしれません。そこまでは無いかもしれませんが、そういうことを考えるならば決まった直後の早い段階でやるのが、応募してくれた方に対する誠意になると思います。そうすると、逆算をして、募集の終わった直後から、2回か3回会議の直後になると思います。事務局お願いします。

【事務局】前回資料で今後のスケジュールをお渡ししていたかと思うのですが、当初は、令和5年9月、11月、2月という予定をしておりました。ですので、9月、11月、ここまでに採用作品を決められればと考えております。「令和5年中に発表します」という言葉を追加するのはいかがでしょうか。

【杉下会長】今日時点としては、令和5年度末までには発表させていただくと、今日の整理をした中で、もし2回の会議で済みそうとなれば、令和5年12月までというように、時期を具体的にするか、やはり令和5年度中のままになるか、確認をする。ということで、少なくとも令和5年度中には発表出来るようにさせていただければと思います。大変良い意見をいただきました。ありがとうございます。

少し飛びますが、シンボルマークの上の「協働ってなに？」のところ、どうしましょうか。漢字の「協働」は、ふりがなを後ろに入れる表現もあるので、スペース的に工夫をしていただく形で。今、中央公園の花植えがあったりとか、オレンジカフェが始まったり、色々な事業もあるので、そういう記載をしたり。状況によっては、二次元コードを入れて、そちらの事例に飛ぶようにして見てもらえれば、スペースを使わずに、うまく活用出来ます。あと、SNSで募集する時に、町外にも募集するときに、募集を世界的にかけるイメージでやるなら、井戸の「井」という漢字みたいな、あれはハッシュタグ(#)と言いますが、あれをつけて投稿すると、検索に引っかかり、そっちに飛ぶというのがあります。そこに一つポイントがあり、「寒川」とローマ字や漢字、平仮名で掲載します。「#samukawa」とローマ字で書くと、外国人の方にも見てもらえます。寒川在住や日本在住の外国人。例えば我々が外国に住んでいたら、検索する時に、英語でなく日本語で出てきたら、そこから調べて、深掘りしていくこともあると思います。ですから、国籍も問わずということであれば、「#samukawa」や「#イラスト」、「#シンボルマーク」を入れると、引っかかりがよくなります。SNSで拡散をお願いしたいときに、一言、二言付け加えると、かなり引っかかりやすくなることもあるので、これも1つの手法かと思います。また、具体的にチラシでPRする時に出来る方法があれば、併せてご意見をいただきより多くの方に知っていただき、多くの作品が見えるように出来ればと思います。大森さん。

【大森委員】今日から参加させていただいているので、このシンボルマークが何を指しているのか、まだよく理解出来ていないのが本音ですが、まちづくり推進会議でのシンボルマークということであれば、「寒川町の町民の方々にもっと寒川を好きになっていただき、みんなが協働的に仲良くやっぺいこう」ということがコンセプトだと思います。その中で、まちづくりということであれば、子ども達を主体や主役にして、今日は寒川町のPTA会長の金子洋一さんがいらっしやっているので、発信していただいて、子ども達をもっとシンボルマークによって、自分たちの町を好きになるきっかけになればと言っている反面、結果的には大人やデザイナーの方が最優秀賞を取られるかもしれない。その時に、子ども達にも副賞が出るような、子ども枠を作ってもらい、子ども達と一緒に、結果的に取り組んだよと出来たら、嬉しいと思います。

ただ、応募期間がかなり短いので、町民協働課でそこまでは出来ないということもあるかもしれません。もし可能であれば、子ども達をもっと主体的に取り入れるような行動もしていただけると、もっと町が元気になるのではないかと思います

【杉下会長】良いご提案をありがとうございます。先ほどの確認が1個抜けていたのですが、最優秀1点だけではなく、努力賞等を設けるのはどうでしょうか。色々な思いを持って描いていただき、その中で、最優秀は最優秀として選ばなくてはいけませんが、粹として、お子様等、色々な作品に日の目を当てられるようにしたい。最優秀賞以外で、何とか賞を設けた方が良いと思うのですが、名称的に何かありますか。例えば寒川未来賞とか。

(各委員、同意の声)

【杉下会長】最優秀は最優秀として、シンボルマークとして活用させていただきます。2番手ではなく、寒川未来賞は、未来を思い描く子ども達みたいな。何点かに縛るのではなく若干名で、がっちりしたシンボルマークではなく、思いを持った方々の作品を表彰しては。それはそれで元気をもらえたり、明るさをもらえたりすることもあると思うので。ですから、大森さんが言われたように、子どもでも、小学生、中学生と幅広いので、そういう意味では、寒川未来賞みたいな。私が勝手に言っているので、他の名称でも良いのですが、どうですか。大森さん。

【大森委員】未来賞もすごく良いと思いました。あとは、寒川をもっと知ってもらうのも主体だと思うので、例えば、寒賞とか。「高座のころ。」だったら高座賞とか、未来賞も入れながら、子ども達も、一生懸命描いてくると思うので、少し賞の数を増やして欲しいと思います。あと、地名の寒川をなぞり、もっと寒川を親しみやすくするのもないかなと思います。

【杉下会長】最優秀以外に幾つか賞を、若干名という形で設け、賞に合うような作品を表彰できれば。今後、推進会議でも、チラシ等を作っていきますよね。そういったイベント等のチラシに、何とか賞で表彰した作品を活用していただけたら、ロゴとか絵があるだけで、そのチラシの雰囲気が柔らかくなったり、楽しさが伝わりやすくなると思います。そういう意味でも、色々な賞という形で作品を残し、「もしかしたら他のところでも活用させていただくかもしれません」と、応募者にお伝えしていただくと、また繋がるかなと思いました。今日いただいた意見をまとめ、次回の会議で決定ということで大丈夫ですか。

【事務局】大丈夫です。

【中島委員】募集資格のところ、不問という2文字がとても堅くて、子どもが分からないと思います。今、皆様のご意見をお聞きしながら「寒川のこと好きな方ならどなたでも」とか、「寒川に興味がある方なら、どなたでも応募出来ます」という言葉を添えた方が分かりやすいし、募集要項的にも柔らかくなるのかなと思いました。

【杉下会長】仰る通りだと思います。その表現も加味して、修正をするということで。星さん、お願いします。

【星委員】小学校や中学校の夏休みの宿題で、幾つかある内からポスターを描いてというのがあります。そういうところに出せば、描く子どもは増えると思います。学校で採用してくれるのかは分かりませんが。

【杉下会長】金子洋一さん、お願いします。

【金子洋一委員】PTAの関係でお話しさせていただきます。まず、夏休み期間中ではあるのですが、だいたい学校に提出するので、8月31日必着となると、宿題として認められるかは不明です。学校との連携がうまく出来れば、宿題として採用するのはすごく良いと思います。やはりその方が、子ども達の間口も広がるので、宿題としてやっていただくのは、私はすごく良いと思うのですが、締切りだけ、少し気になりました。

【事務局】ご意見ありがとうございます。夏休みの宿題も良いと思い、少し調べました。期限は延ばすことも出来るのですが、応募関連の宿題が多過ぎて、宿題の一覧の中で埋まってしまう懸念があります。そこで少しご相談で、PTAの関係をされているということで、そちらから、子ども達にお渡しする方法はないでしょうか。今までと同じように宿題にすると、恐らく埋もれ過ぎてしまうと思います。また、町では、保育園児、小学生に向けて、情報紙「すきっぷ」を作っていますので、そちらの7月1日号に掲載したいと考えています。これは、お子さんから保護者に、保育園や学校を通じて、お持ち帰りいただいていますので、ぜひ掲載したいと考えています。

【杉下会長】この場ですぐ調整が出来るわけではないので、金子洋一さん含め、PTAの方々と相談や調整出来ることがあれば、していただければありがたいです。事務局も、教育委員会等、事前調整が出来るのであればしていただく。なるべく多く、特にお子様の目に触れて、応募いただくような機会づくりは、事前にしていくようにさせていただければと思います。よろしいでしょうか。では、良い意見がたくさん出てきたので、これを整理して、次回、会議でご報告をさせていただきます。では、ここで一度、(1)は閉じさせていただきたいと思います。

(2) 公募委員サロン（仮称）の開催について（資料3）

【杉下会長】続きまして、(2) 公募委員サロン（仮称）の開催について、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】-資料3に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございました。これも先ほど同じように、まず検討事項を事務局がまとめていますので、それに沿って、皆様からご意見を賜れればと思います。まず、タイトルですが、今、公募委員サロンということで、7ページのチラシを見ていただければと思います。具体的に決めなくてはいけないのは、③の開催日時です。令和5年5月〇日と書いてありますが、確認ですが、5月で決めたいと。

【事務局】出来れば5月に開催したいです。

【杉下会長】5月に開催する場合、平日が良いのかというところなのですがどうですかね、皆さん。特に公募委員さんもいますが、大体トータル2時間ぐらいで開催をするという中で、平日が良いのか、どちらが良いですか。

【吉田委員】公募委員サロンの対象者の方達が、平日に参加出来るのか、それとも、土日に参加できるのか。この方達が参加するわけなので、特性がどうなのか。

【事務局】推測ではありますが、公募委員を務めていらっしゃる方々は、色々な審議会にご参加いただいている皆様です。これらの審議会は、全て平日に開催しております。ついては、平日開催の会議にご参加いただいている公募委員の方なので、恐らく平日に、日程を調整できる方と推測しています。もしくは、事前に会議の日程が決まっていて、その日を空けていただいている方もいらっしゃるかもしれませんが、平日のご参加が可能だと考えています。

【杉下会長】まさにこの会議も平日に開催し、公募委員5名が参加しています。

【吉田委員】そうすると、平日がよろしいかと。

【杉下会長】では、5月の平日で進めさせていただきます。あとは、時間と会場ですね。公募委員も結構の人数がいるので、ある程度の人数が入る会議室を探さなくてはならない。そうすると、この推進会議は大体平日の午後3時からやるのが、一番多いのですが、他の審議会の会議の開催時間帯はわかりますか。

【事務局】確認は出来ていないのですが、今回、皆様にコーディネーターとしてサロンにご参加いただくことを考えておりますので、皆様が平日のどの時間帯がよろしいかということで決めていただいて構わないと思います。

【杉下会長】午後3時開催が多いので、午後3時から5時ぐらいでどうでしょう。進行役やコーディネーターを、この推進会議の中からお願い出来る方にしていきたいです。平日の午後3時から5時の2時間で、来年5月に開催すると考えた場合、コロナも完全には収束していないという前提を踏まえ、ある程度の間隔がとれる広さのある部屋を、次回の会議までに事務局に確認いただくということでしょうか。

【事務局】分かりました。確認いたします。

【杉下会長】お願いします。それ以外のタイトルや、開催内容等について、〇〇しか書いてありませんが、何かありますか。公募委員をされて、色々な会議体に出ている方々なので、多少堅苦しくても良いと思うのですが。内容としては、公募委員としての意見や、「こんなことを言えた」「こんなことが分からない」等の視点が大切です。専門家会議のような、学識者だけで堅苦しい言葉を使うのではなく、先ほどこの会議内で出た「子ども達のためにこういう表現のアプローチをした方が、もっと砕けて伝わりやすい」や「時期はちゃんとやらないと、せっかく応募してくれた人に対して、失礼に当たる」等の意見は大切。そういった時間軸の中のお答えや、小さいことが実はすごく大切で、思いやりや優しさ、気遣いになります。「そういうことが大切です」と知っていただき、公募委員になり、会議体に出て、ご発言いただくことも大切だと思います。それが寒川をよくする第一歩になり、気づきになります、と伝えられる公募サロンの1回目開催に出来ればと考えています。

それを簡潔にまとめるにはどうしましょうというのが、今日の会議です。皆さんにお知恵をいただきたいのですが、こんな感じでまとめたらどうか等、一字一句でなくても、ボワンとした形で良いので言っていただければ、事務局と私でまとめて、次回にご提示出来ると思います。何か、こういう言葉や表現を入れた方が良いのではとかがあれば、ご意見を賜ればと思います。中島さん、お願いします。

【中島委員】どんな文章が良いのか、はっきりとは分からないのですが、②のところで「あなたが感じている公募委員としてのやりがいや新たな発見について共有できる仲間をみつけませんか？」という案ですが、「交流を深めませんか」「ざっくばらんにお話をしませんか」等、もう少し柔らかな言葉で表現してはどうでしょう。「あんなこと言っても良いのかな」や「そんな不安はありませんか」等、公募委員が思っているような

ことを文章にすると分かりやすいし、公募の方達も「私もそんなだよな。じゃあ、お話に行ってみようかな」と。「私も同じことを思っているんだけど」のように人が集まり、サロンになっていくのかなと思います。

【杉下会長】良いです。ボワツとしている中、意見を出し合い、最終的に良いところは残して、変えるところは変えていき、落とし込むという、まさにそれなんです。中島さんみたいに「そういうようなで良いですかね」と、それで良いのです。そういう気持ちになって良いですよと、公募委員に伝えられたら。

8ページの④、検討事項にもありますが、公募委員サロンを京都で実際に開催した際には、開会し、自己紹介し、スピーチし、全体共有という流れで、全体は2時間でした。

寒川の場合も、まず、自己紹介で何かしゃべるんだな。スピーチでは、いまここマップや、公募委員になったときの時間軸の使い方について知ってもらう。意見交換では、今、中島さんが仰ったようなテーマがあれば、ここでそういう思いをお話し出来るんだな、といったように、大体の時間軸が見えれば良いと思います。そういう中で、これは、もう少しこういう方が良いとか、順番は前後変えた方が良いというところで、ご意見があっても構いませんので、全体的に感じたこととか、ボワンとしたご意見で構いませんので、お話しいただければ助かります。

どうですか、吉川さん。「この表現だとまだ分からない」「逆に、分からないから、こういう方が分かりやすくなるよね」とか、「この表現って、何かな」のような、率直な感想がありましたら。先入観がないからこそ、逆に、我々に気づきがあるかもしれないので。無理に発言しなくても、少し感じたことがあれば、ご意見をいただければ嬉しいです。

【吉川委員】この公募委員サロンというのは、現に公募委員をなさっている方が出席ということですよ。ですから、この堅苦しく感じているって、これでも良いと思います。新たに公募委員をなさる方を入れるということだったら、これではどうかと思いますが、公募委員をなさっている方なので、堅苦しい形でも、私は良いと思っています。

【杉下会長】ありがとうございます。こういう難しい仕事ばかりですが、こういう砕けた感じでやりたいので。安田さん、何かあれば、お願いします。

【安田委員】これって毎年行っているのですか。初めてですね。ですから、これが今後こうなるよといった形の初回ということになりますので、少し難しいですね。現状では何とも言えません。もう少し情報をいただければ、また精査してコメントさせていただきます。

【杉下会長】最終的には締めるところは、締めなくてはいけないので、そういうところで学識経験者として、安田さんに総括というのもあると思います。橋口さん、何かご意見等があれば、お願いします。

【橋口副会長】10ページの色々な協議会、立派な方々が来るのかなと思っているのですが、7ページの「あなたが感じている」の文章。多分、委員会もちょっと不安なところもあると思いますので、共有や共感という言葉を入れたら、来やすいかと思えます。

【杉下会長】表現として、共有出来る仲間ではなくて、何か共感出来るとか、共に何かいろいろ感じ合う、知り合う、繋がるというところで、そのような言葉もあっても良いのでは、というご意見がありました。他に皆様、何かございますか。事務局。

【事務局】1点確認ですが、前回会議でご提案いただき、11ページのスピーチとして、いまここマップの説明はいかがでしょうかというご提案があったのですが、今お話しいただいたように、堅苦しくなく、公募委員としての皆様の不安等を解消するため、共感を求めるためにということであると、少し難しいかと思っております。もう少し柔らかいスピーチでも良いのかなと感じているのですが、いまここマップを、公募委員サロンで活用するかどうか、皆様にご協議いただきたいです。

【杉下会長】いまここマップは12ページ以降です。先ほどご説明いただきましたが、活用した方が良いのか、それ以外のもを活用した方が良いのか。繰り返しになりますが、大体審議会、推進会議というのは、2年間で基本計画を検討します。その中で、どのタイミングでどういう発言をした方が良いというのが時間軸で分かるものが、いまここマップです。こういう堅苦しく、そのタイミングでご発言はしていかななくてはならないみたいな縛り的な感じになってしまうのではというのが、事務局からのお話です。これは使わないで、皆さんの交流の時間を増やす方が良いという、ご提案であったのですが、どうですか、皆さん。

(各委員、同意の声)

【杉下会長】確かに初めての開催なので、あまり堅苦しくなくざっくばらんに、橋口さんが言ったように共感出来るような空間を、肩に力を入れず話せる場が寒川町にある、空間や空気感を作って、その中で、さらに深掘りをして、専門的に発言したり、提案するためには、どのタイミングで、どういうふうに言えば良いのかというのが、いまここマップとして見ると、分かりやすくなりますねというのが、次のステージなのかと。

1 回目の公募委員サロンをやってみて、その中で色々な検証をして、2 回目以降、継続していくのかと思うので、その時にいまここマップを活用すると良いかもしれません。もしかしたら使うかもしれないですが、今の時点としては、いまここマップは使わず、なるべく皆さんが気軽に、ざっくばらんにご発言出来る時間を多めにとるといような時間軸で整理するという事。何か良い参考資料があれば、取り入れるという形で。「さあ、話してください」だけだと、話しにくいので、話すきっかけに出来るものがあれば、それを活用し、公募委員同士の意見交換に繋げるという流れで、整理させていただきたいと思ひます。中島さん、お願いします。

【中島委員】公募委員サロンの流れの確認ですが、開会、自己紹介、スピーチがありますが、これは参加人数にもよると思ひのですが、このぐらひの人数であれば、みんなでやるのか、それとも、ある程度人数が多い場合は、少人数にして、グループワークをやるのかといのは、応募が来た段階で、人数によって決めることですか。

【事務局】今、ご質問いただきましたとおり、案内としては、10 ページの32 名全員にお送りをします。その中で、ご回答いただき、出席者数が確定次第、皆様にお諮りをさせていただきたいと思ひております。もし全員のご出席があれば、5 名ずつ6 グループを作る、もしくは、本当に10 名しかご応募がなければ、全員でお話しするとか、そこも皆様からご意見をいただきながら進めていきたいと思ひています。

【杉下会長】最終的になるべく1 人でも意見が言えるような、適正な人数割りにするといふことで。星さん、お願いします。

【星委員】開催が5 月で、締切りも5 月〇日となっているので。締切りから開催までの日にちがないと、準備が困るのではないですか。それをまず、皆さんにお知らせするのはいつぐらひに。

【事務局】すみません。チラシには回答期限を5 月と書いてしまったのですが、次回の会議が2 月をイメージしています。そこで、チラシ案を確定させていただき、その後、公募委員の方に通知予定です。今、こちらには、5 月と載せましたが、その前までにいただいて、開催までの間に1 回、事前打合せではないですけど、こういう形で公募委員サロンの役割等を話せるような会を1 回持ちたいと思ひておりますので、その前に設定するように、逆算をさせていただきます。日程は修正をして、案は作らせていただきます。締め切りは4 月中にいたします。

【杉下会長】先ほど、いつやるかが決まっていなかったので、5 月といふことで逆算して、4 月何日か、ゴールデンウィーク

があるので、また、我々も役割分担を決めるような時間を整理して、次回の会議にご提言出来るようお願いいたします。

公募委員サロンについて、何かご意見、ご質問ございますか。よろしいですか。では、(2)の公募委員サロンについては、これで閉じさせていただきたいと思えます。これで議題の(1)、(2)は終了させていただきます。

7 報告

(1) 寒川町自治基本条例の一部改正 (資料4)

【杉下会長】続きまして、次第の7、報告に移らせていただきます。まず(1)寒川町自治基本条例の一部改正について、事務局よりご説明をお願いいたします。

【事務局】-資料4に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございます。これは、条例の文言の修正報告案件で、特に、我々の会議のやり方が変わるということではありませんので、ご承知おきください。

(2) 第25回まちづくり懇談会 (オンライン開催) (資料5)

【杉下会長】(2)第25回まちづくり懇談会 (オンライン開催)が終わりました。それについて報告があります。よろしくをお願いいたします。

【事務局】-資料5に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございます。これまで色々アンケートの結果もあるので、後ほど規定とかをお読みになる方もいらっしゃると思うのですが、何かご確認したいことがございましたら、お願いいたします。

昨年に引き続き、今回もコーディネーターを務めさせていただき、何とか無事に終わったかなと思えます。色々なご意見がありますので、気になることがあれば、後日でも構わないので、事務局にもお伝えいただければと思えます。では、以上で(2)の報告は終了させていただきます。

8 その他

(1) わたしの提案制度褒賞審査会委員の推薦(資料6)

【杉下会長】続きまして、次第の8、その他に移らせていただきます。(1)わたしの提案制度褒賞審査会委員の推薦について、事務局にご説明をお願いいたします。

【事務局】-資料6に沿って説明-

【杉下会長】ありがとうございます。今回、庭野委員が退任し、1名欠員となりましたので、ご推薦いただきたいということが、町長からこちらの会議宛に依頼が来ております。この委員に関して、自薦他薦問いません。どなたか。

(各委員、挙手無し)

【杉下会長】いなければ、事務局から、今までの経緯とか、この審査会の構成メンバーのバランスもあるので、腹案があれば、お示しいただければ助かります。事務局、お願いします。

【事務局】まちづくり推進会議からわたしの提案制度褒賞審査会委員への推薦する2名の内、1名を相田さんに担っていただいておりますので、もし可能であれば、女性ということで、中島委員にお願い出来ればと考えております。いかがでしょうか。

(中島委員、承認)

【杉下会長】では、中島さんに褒賞審査会委員をお受けいただきたいと思えます。皆さん、よろしいでしょうか。では、拍手で。

(各委員、拍手にて承認)

【杉下会長】では、満場一致ということで、まちづくり推進会議からは、庭野さんに代わって中島さんをご推薦させていただくということで、事務局から町長にご報告をお願いいたします。

【事務局】ありがとうございます。

【中島委員】よろしく申し上げます。

【杉下会長】以上で、議題、報告、その他が、次第に沿って終わりました。それ以外で、各委員さんから、何かご意見、ご質問があればと思うのですが、いかがでしょうか。特によろしいですか。ほかに事務局から何か。お願いします。

【事務局】今日は皆様、ありがとうございました。早速ですが、

次回、第4回まちづくり推進会議の日程調整をさせていただきたいと思っております。事務局の案といたしましては、2月15日水曜日3時からをご提案させていただきたいのですが、皆様、ご都合はいかがでしょうか。

(各委員、異議無し)

【事務局】ありがとうございます。今の段階でご都合の悪い方がいらっしゃらないようでしたら、2月15日、水曜日、午後3時から決めさせていただきます。会場につきましては、追って連絡をさせていただきます。次回、コロナの感染状況にもよりますが、同じく対面での開催を考えております。感染が拡大した場合は、延期の可能性もございますので、その点だけご了承ください。事務局からは以上です。

【杉下会長】他はよろしいでしょうか。では、進行を事務局に戻させていただきます。

【事務局】ありがとうございます。いつも皆様には貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございます。今回も無事に会議を終了することが出来ました。最後は、副会長に閉会のご挨拶をいただいて、終了とさせていただきます。

9 閉会

【橋口副会長】皆様、長時間にわたりお疲れ様でした。今年も皆様のご協力の下、この会議体も滞りなく進めていけたと思っております。来年も皆様のお力をいただければと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第8期寒川町まちづくり推進会議第3回会議を終了いたします。ありがとうございました。

配付資料

- 資料1 第8期寒川町まちづくり推進会議 委員名簿
- 資料2 協働の見える化「シンボルマークの作成」について
- 資料3 公募委員サロン（仮称）の開催について
- 資料4 寒川町自治基本条例の一部改正
- 資料5 第25回まちづくり懇談会（オンライン開催）
- 資料6 わたしの提案制度褒賞審査会委員の選出について

議事録承認委員及び
議事録確定年月日

大森委員、金子巖委員（令和5年2月1日確定）